

道徳

「365日の紙飛行機」手話歌 ～「手話」で伝えよう「手話」でつながろう

横須賀市立常葉中学校

単元（題材）目標

本主題では身近な人に思いやりの心を持って接する取組のひとつとして、耳の不自由な方の立場を想像しながら「手話」を使った歌を学習した。さらに「手話」で学級の仲間がつながる取組ともしたい。

- 人間愛の精神を深め、だれに対しても温かく接していこうとする心情を育てる。(2年)
- 相手を尊重し、思いやりの心をもって、温かく接していこうとする態度を育てる(1年)

(1) 実施時期 12月初旬

(2) 対象（学年等・人数）

全学年

第1学年 167名 第2学年 167名 第3学年 160名

(3) 指導者（教諭・外部講師等）

各学級担任

(4) 実施内容

- ① 昨年の「手話」授業を想起させ、手話を使って話をするときに注意すべきことを確認する。
 - ・手話による挨拶の仕方
 - ・手話を使って自分の名前を伝える復習
 - ・「知っている」ことが「わかり合うこと」の第一歩であるという考え方
 - ・相手の気持ちに寄り添った伝えかたをすることの大切さなどを思い出す。
- ② 本時に扱う「365日の紙飛行機」での歌詞のキーワードとなる手話を担任が生徒に手話で伝える。（「人生」「一生懸命(力の限り)」「紙飛行機」の3つ）
- ③ 手話歌を実際に行い、覚える。
 - ・1番のサビ部分だけを繰り返しDVDで視聴する。
 - ・手話をコマ図にしたプリントで学習する。
 - ・班での教え合い
- ④ この歌詞で伝えたい部分についてワークシートに記入し交流する。
 - ・伝えたい部分は特に「相手を意識しながら」わかりやすく手話することを心がけさせる。
- ⑤ 成果を発表する。



(5) 成果

- 「手話」というコミュニケーションツールを知ることが聴覚障がいについて知ることにつながることやツールを活かすためには「相手の気持ちに寄り添って」行うことが大切であることを感じられた。

〈生徒の感想 一部抜粋〉

- ・手話を必要とする人がいると思うけれど、自分の身近にはいなかったのが今回授業でやって難しいと感じた。たくさんの言葉を手で伝えるというのは伝わりにくいことも多いと思うけれど、多くの人に手話が身近にあるということがわかる世界になるといいと思った。(1年生)
- ・伝えようと思う気持ちが体や表情から出ていてすごいなと思いました。耳は聞こえないかも知れないけれど、それを忘れさせるような気持ちになる手話をしていて、それがすごいし大切なんだろうと思った。(2年生)
- ・私には親戚に聴覚障がいを持つ人がいて、その人が手話を使っているときに相手にニュアンスを伝えるのが大変そうだなと思っていましたが、今日の手話で歌を歌ってみて大変そうだなと思っていた手話で歌のメロディまで表情など体全体を使ってあらわせることを知って思いというのは何でもどんな方法でも伝えることができるのだと感じました。(2年生)

(6) その他

- ワークシートについては校内廊下に掲示し、全校で交流した。
- 3月に行われる「3年生を送る会」でも全校で行う。